

宮代町住民意識調査結果の概要 (18歳以上の町民3,000人を対象)

◎アンケート調査の実施概要

調査対象	宮代町在住の18歳以上の男女
対象数	3,000人
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和元年6月10日～7月1日
回収数(率)	1,193人(39.8%)

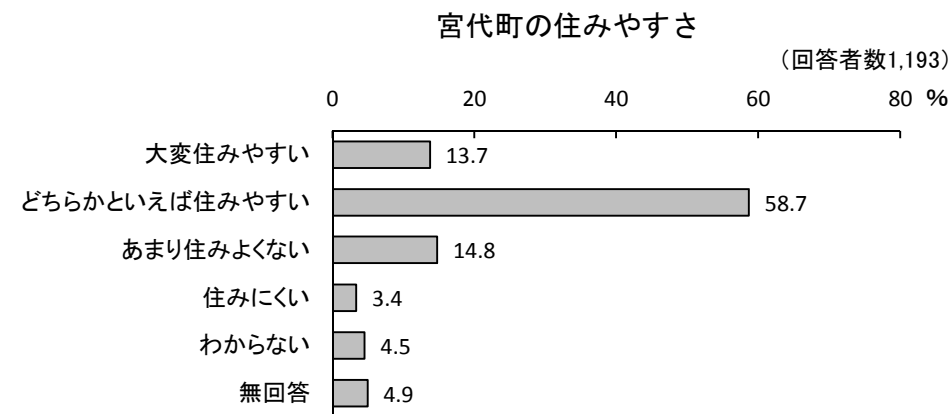
調査結果の見方

- ・集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならないことがあります。
- ・2つ以上の回答を要する(複数回答)質問では、その回答比率の合計は100%を上回ることがあります。

1. 住みやすさ

〈全体〉

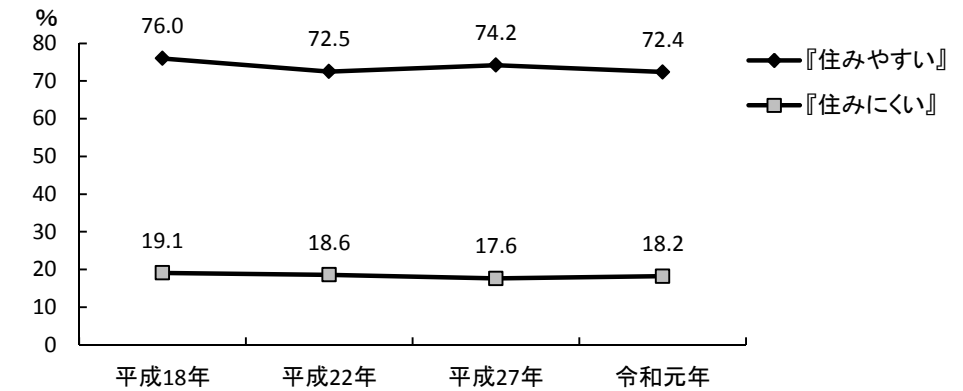
- ◇「大変住みやすい」13.7%、「どちらかといえば住みやすい」58.7%、合わせた『住みやすい』は72.4%、約7割である。
- ◇これに対し、「あまり住みよくない」14.8%、「住みにくい」3.4%、合わせた『住みにくい』は18.2%である。



〈経年変化〉

- ◇『住みやすい』が最も多いのは平成18年調査の76.0%であるが、今回調査(令和元年)を含めあまり変わらない。
- ◇『住みにくい』が最も多いのも平成18年調査の19.1%であるが、『住みにくい』についても今回調査を含めあまり変わらない。

宮代町の住みやすさの推移



(回答者数)	平成18年 (935)	平成22年 (1,262)	平成27年 (1,064)	令和元年 (1,193)
大変住みやすい	14.9	12.8	12.6	13.7
どちらかといえば住みやすい	61.1	59.7	61.6	58.7
『住みやすい』	76.0	72.5	74.2	72.4
あまり住みよくない	14.7	15.1	14.7	14.8
住みにくい	4.4	3.5	2.9	3.4
『住みにくい』	19.1	18.6	17.6	18.2
わからない	2.1	4.4	3.9	4.5

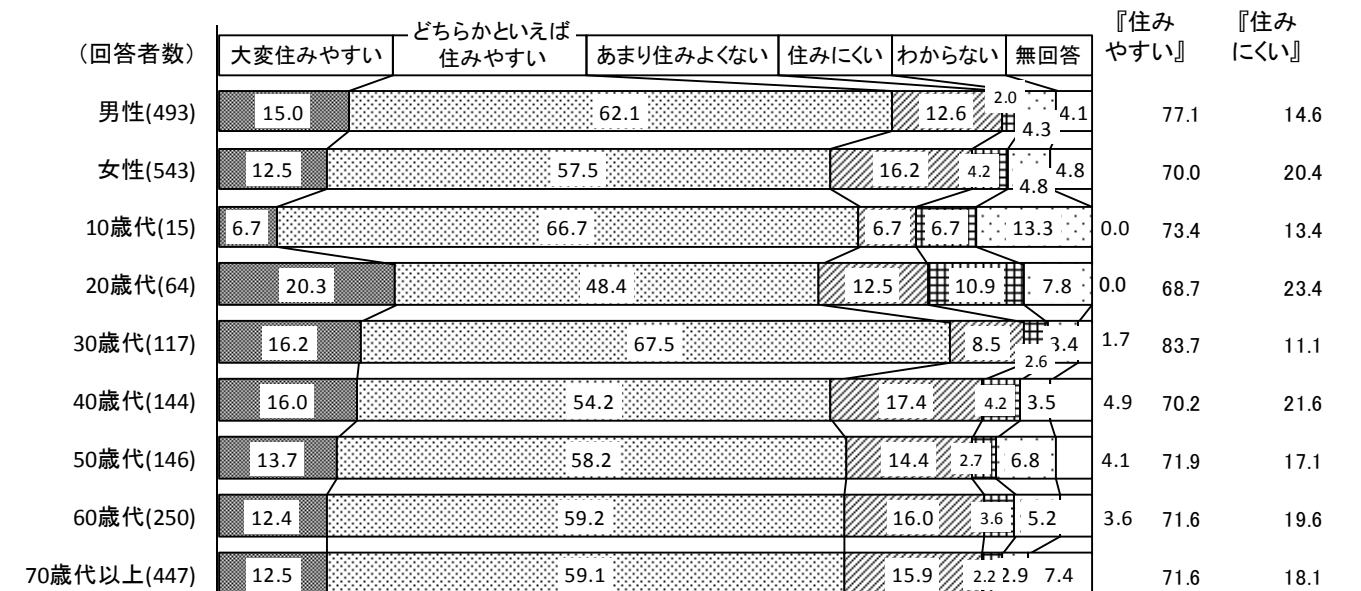
〈性別〉

- ◇『住みやすい』は男性77.1%、女性70.0%、『住みにくい』は女性20.4%、男性14.6%である。

〈年齢別〉

- ◇『住みやすい』は30歳代が83.7%と最も多い。40歳代以上はいずれも70%以上、20歳代は68.7%、10歳代は43.4%である。
- ◇『住みにくい』は20歳代23.4%、40歳代21.6%、60歳代19.6%の順であり、30歳代が11.1%と最も少ない。

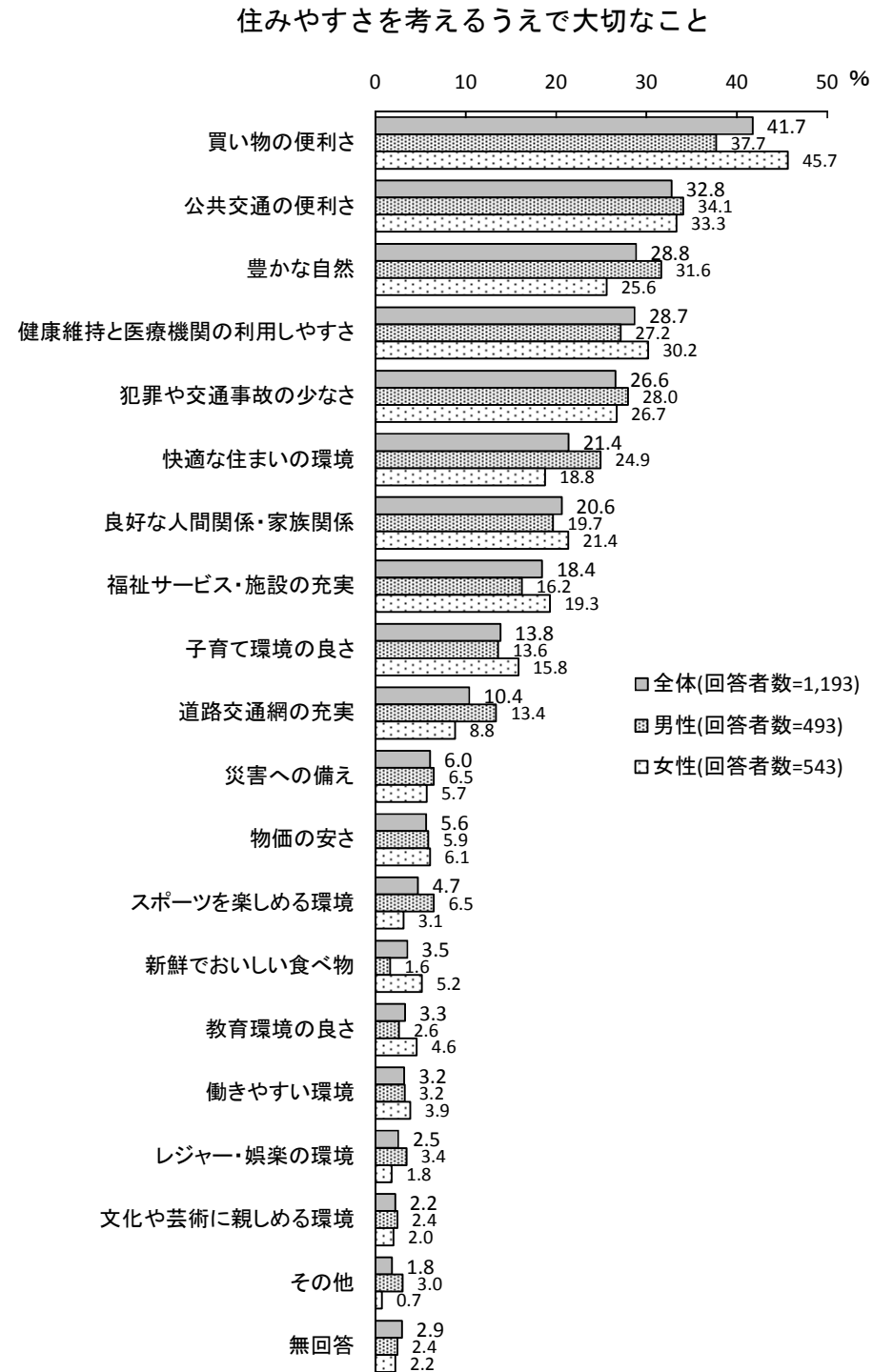
性別・年齢別 宮代町の住みやすさ



2. 住みやすさを考える上で大切なこと

〈全体〉

◇「買い物の便利さ」41.7%、「公共交通の便利さ」32.8%、「豊かな自然」28.8%、「健康維持と医療機関の利用しやすさ」28.7%、「犯罪や交通事故の少なさ」26.6%の順である。



〈性別〉

◇男性が女性を上回る（5ポイント以上）主なことは、「豊かな自然」男性 31.6%、女性 25.6%、「快適な住まいの環境」男性 24.9%、女性 18.8%である。

◇女性が男性を上回る（5ポイント以上）主なことは、「買い物の便利さ」女性 45.7%、男性 37.7%である。

〈年齢別〉

- ◇「買い物の便利さ」は、10歳代及び30歳代を除いては、いずれの年代も1位である。
- ◇「公共交通の便利さ」は、60歳代以上になると、「健康維持と医療機関の利用しやすさ」と入れ替わる。
- ◇「豊かな自然」は、30歳代及び40歳代では上位5位にはなく、「子育て環境の良さ」や「犯罪や交通事故の少なさ」「快適な住まいの環境」が上回る。
- ◇「健康維持と医療機関の利用しやすさ」は、60歳代及び70歳以上では1位の「買い物の便利さ」に次ぐ。
- ◇「犯罪や交通事故の少なさ」は、70歳以上を除き、上位5位に上げられている。70歳以上は「良好な人間関係・家族関係」と入れ替わる。

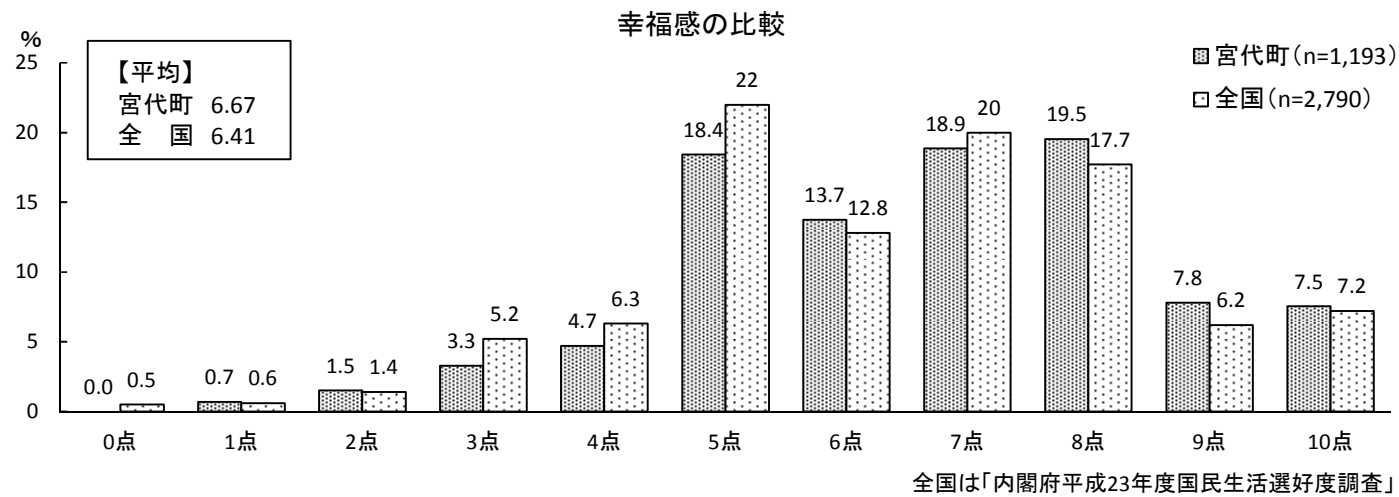
年齢別 住みやすさを考えるうえで大切なこと

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
買い物の便利さ	①	⑤	①	②	①	①	①	①
公共交通の便利さ	②	①	②	③	②	②	④	④
豊かな自然	③	⑤	③			③	③	③
健康維持と医療機関の利用しやすさ	④	①			④	④	②	②
犯罪や交通事故の少なさ	⑤	③	③	④	③	⑤	⑤	
スポーツを楽しめる環境		③						
レジャー・娯楽の環境		⑤						
福祉サービス・施設の充実		⑤						
快適な住まいの環境			⑤	⑤				
子育て環境の良さ				①	⑤			
良好な人間関係・家族関係								⑤

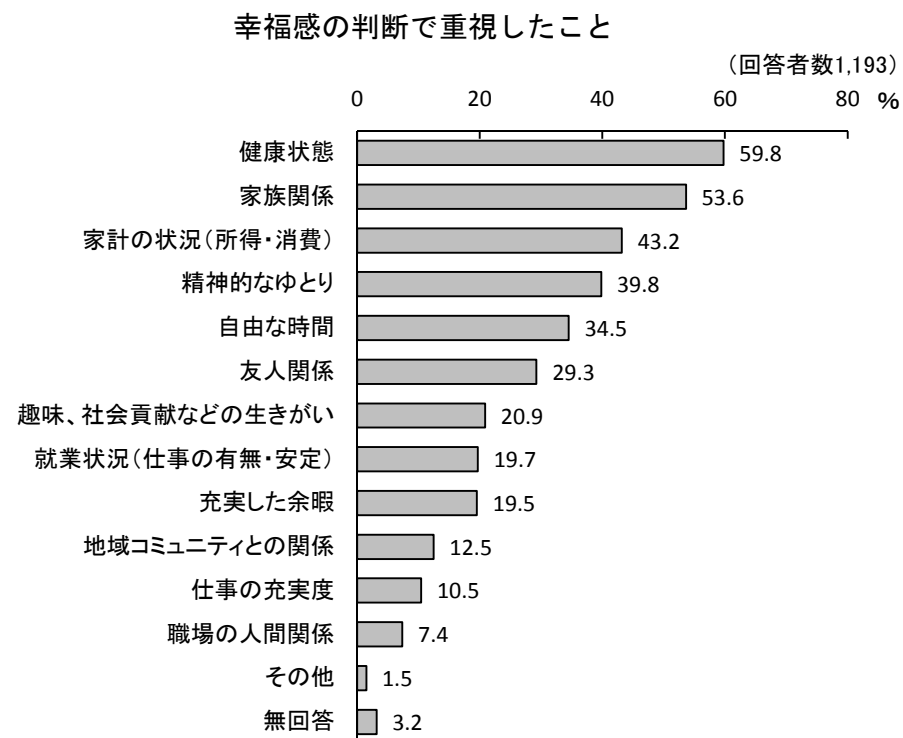
○数字は順位

3. 幸せ度と寄与するもの

- ◇「とても幸せ」を10点とした場合、自分の幸せ度は何点か聞いたところ、最も多いのは8点の19.5%、次いで7点の18.9%、5点の18.4%と続く。
- ◇国においても平成23年度の国民生活選好度調査の中で同じ調査を実施しているが、本町は国と比べると8点以上が多く、幸せ度は比較的高いものとなっている。ちなみに平均値は本町が6.67、国が6.41である。



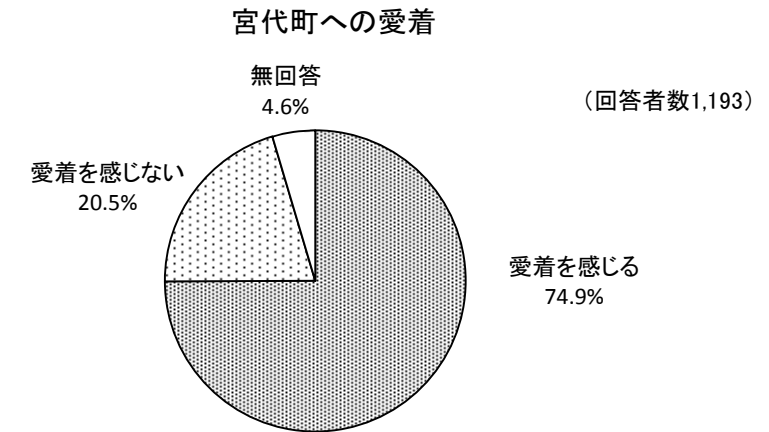
- ◇幸福度を判断した際に重視したことは、「健康状態」59.8%、「家族関係」53.6%、「家計の状況(所得・消費)」43.2%、「精神的なゆとり」39.8%などが上位にあげられている。



4. 町への愛着

〈全体〉

- ◇「愛着を感じる」74.9%、「愛着を感じない」20.5%である。



〈性別〉

- ◇性別では、男女ほとんど差がない。

〈年齢別〉

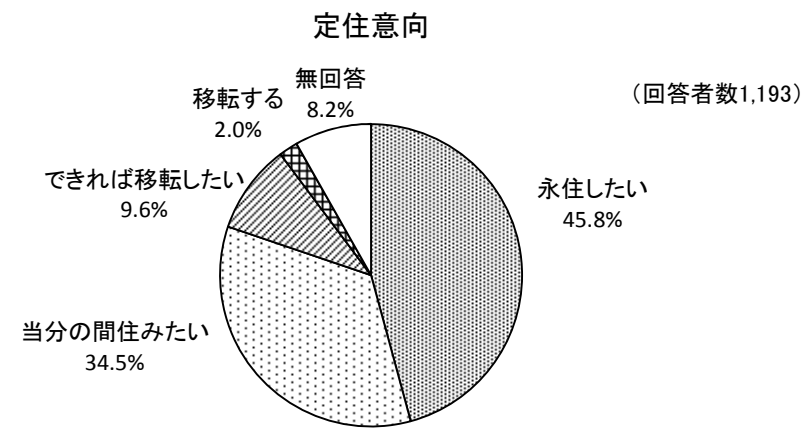
- ◇「愛着を感じる」は30歳代の77.8%、70歳代以上77.4%、60歳代76.8%、40歳代70.8%と続き、10歳代の66.7%が最も低い。
- ◇「愛着を感じない」は、10歳代33.3%、20歳代31.3%、50歳代26.7%の順である。

(回答者数)	愛着を感じる	愛着を感じない	無回答
男性(493)	75.7	20.3	4.1
女性(543)	74.6	21.2	4.2
10歳代(15)	66.7	33.3	0.0
20歳代(64)	68.8	31.3	0.0
30歳代(117)	77.8	20.5	1.7
40歳代(144)	70.8	25.7	3.5
50歳代(146)	69.9	26.7	3.4
60歳代(250)	76.8	19.6	3.6
70歳代以上(447)	77.4	15.4	7.2

5. 定住意向

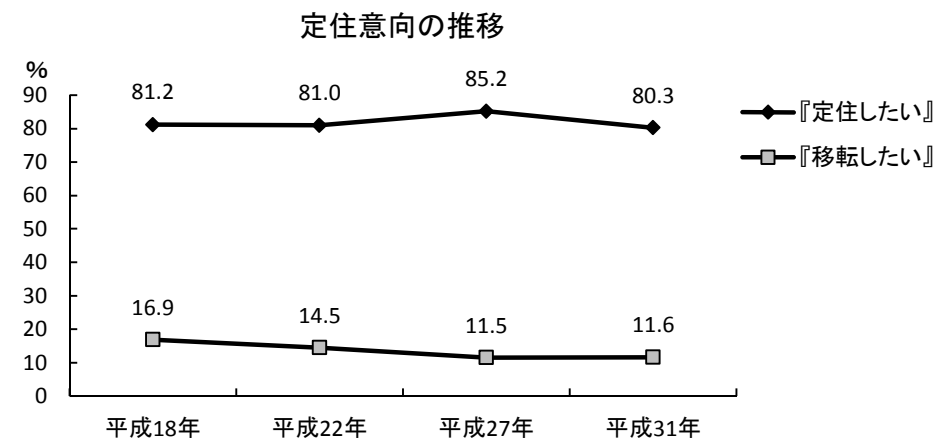
〈全体〉

- ◇「永住したい」45.8%、「当分の間住みたい」34.5%、合わせた『定住したい』は80.3%である。
- ◇これに対し、「できれば移転したい」9.6%、「移転する」2.0%を合わせた『移転したい』は11.6%である。



〈経年変化〉

- ◇『定住したい』は80%台が続いているのに対し、『移転したい』は次第に少なくなる傾向にある。



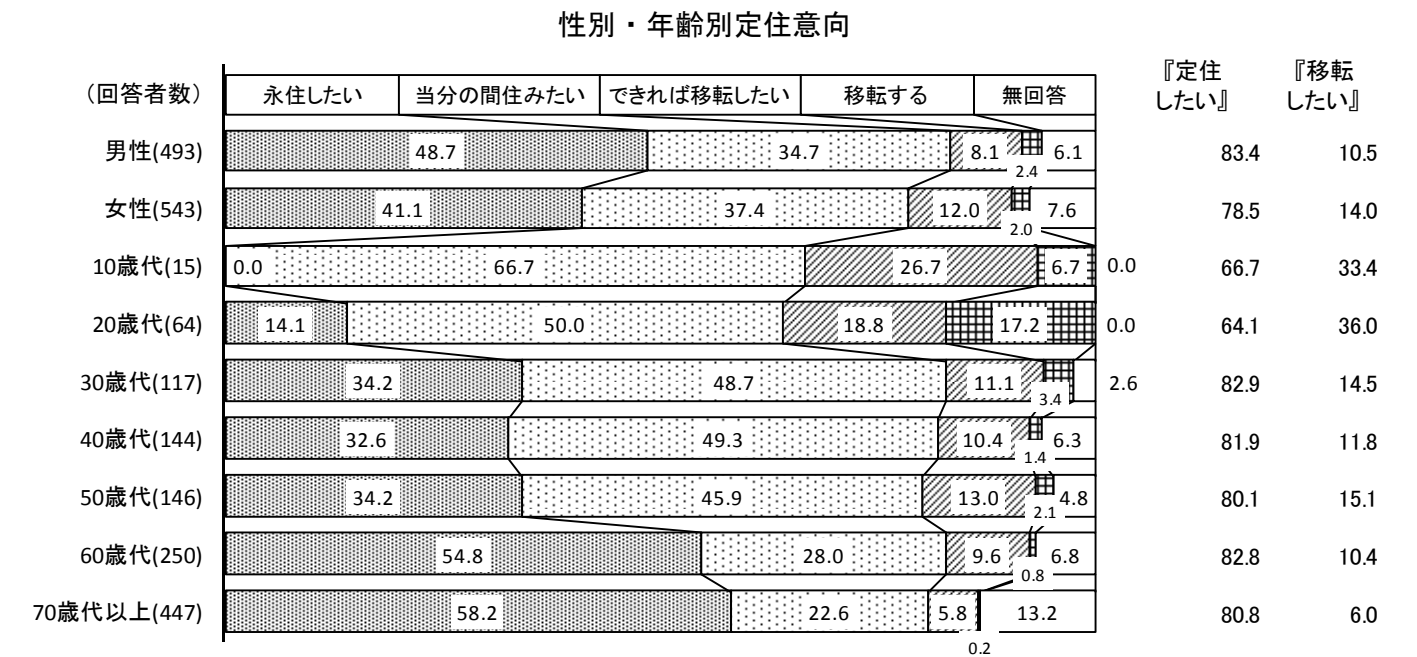
	平成18年 (935)	平成22年 (1,262)	平成27年 (1,064)	平成31年 (1,193)
永住したい	49.6	44.8	47.0	45.8
当分の間住みたい	31.6	36.2	38.2	34.5
『定住したい』	81.2	81.0	85.2	80.3
できれば移転したい	14.2	12.2	10.5	9.6
移転する	2.7	2.3	1.0	2.0
『移転したい』	16.9	14.5	11.5	11.6
不明・無回答	1.9	4.5	3.3	8.2

〈性別〉

- ◇『定住したい』は、男性83.4%が女性78.5%をやや上回る。

〈年齢別〉

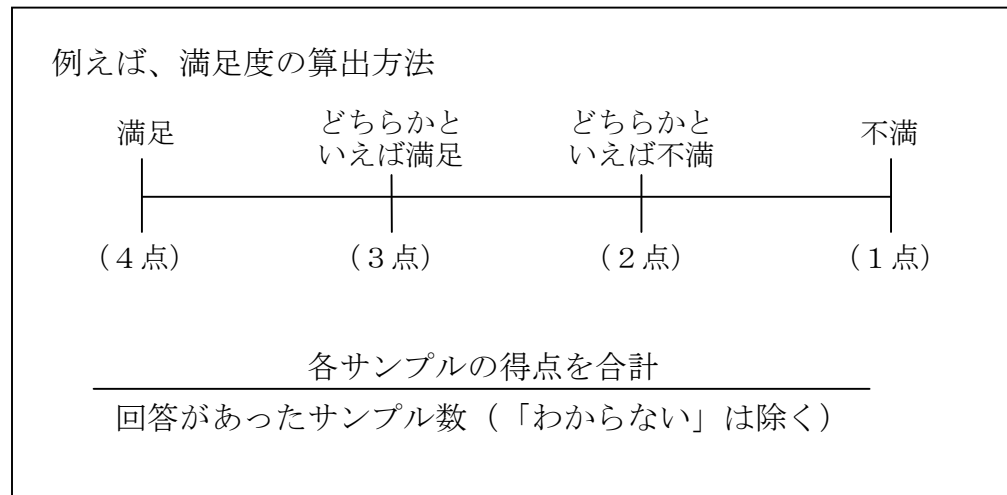
- ◇『定住したい』は、30歳代以上がいずれも80%を上回る。
- ◇『移転したい』は10歳代及び20歳代は30%を上回り、50歳代15.1%、30歳代14.5%、40歳代11.8%と続く。



6. 満足度・重要度

〈満足度・重要度スコア〉

◇満足度・重要度スコアは、4段階評価の回答に得点を与えて項目ごとに平均値を算出したものである。



◇満足度スコアの高いのは、①上水道、②消防・防災体制、②町職員の接客態度、④下水道等の生活排水処理対策、④ごみの処理、⑥自然環境の豊かさと保全の取組みなどである。

◇これに対し、満足度スコアの低いのは、①町内循環バスの路線網・便数、②雇用機会の確保、③町の特性をいかした観光の振興、④市町村合併や事務組合など行政の広域化、⑤道路の整備（幹線道路）などである。

◇重要度スコアの高いのは、①防犯や交通安全対策、②消防・防災体制、③食料品等の日常品の買い物の便利さ、④各種健診や相談等の保健事業、医療体制、⑤ごみの処理、⑥小中学校等の教育環境などである。

	満足度	重要度
1 都市基盤	道路の整備(幹線道路)	⑤ 2.25 3.18
	道路の整備(生活道路)	2.34 3.23
	鉄道の駅施設・運行ダイヤ	⑦ 2.81 3.26
	町内循環バスの路線網・便数	① 2.08 2.89
	上水道	① 2.96 ⑦ 3.44
	下水道等の生活排水処理対策	④ 2.86 ⑨ 3.41
	公園・遊歩道の整備	2.45 3.03
	市街地の街並み・景観の美しさ・快適性	2.52 2.98
2 生活・自然環境	住宅地の整備	2.55 3.01
	ごみの処理	④ 2.86 ⑤ 3.48
	地球温暖化対策	2.55 3.31
	自然環境の豊かさと保全の取組み	⑥ 2.84 3.18
	道路等の水はけ・冠水対策	2.29 3.40
	防犯や交通安全対策	2.59 ① 3.58
3 教育・生涯学習・コミュニティ	消防・防災体制	② 2.87 ② 3.53
	消費者対策(相談体制等)	2.52 3.11
	小中学校等の教育環境	⑦ 2.81 ⑥ 3.45
	生涯学習の機会・内容	2.66 2.92
	市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報	2.70 2.86
	地区、自治会等の活動や近所づきあい	⑩ 2.76 3.03
	地区、自治会活動や市民活動に対する支援	2.66 2.95

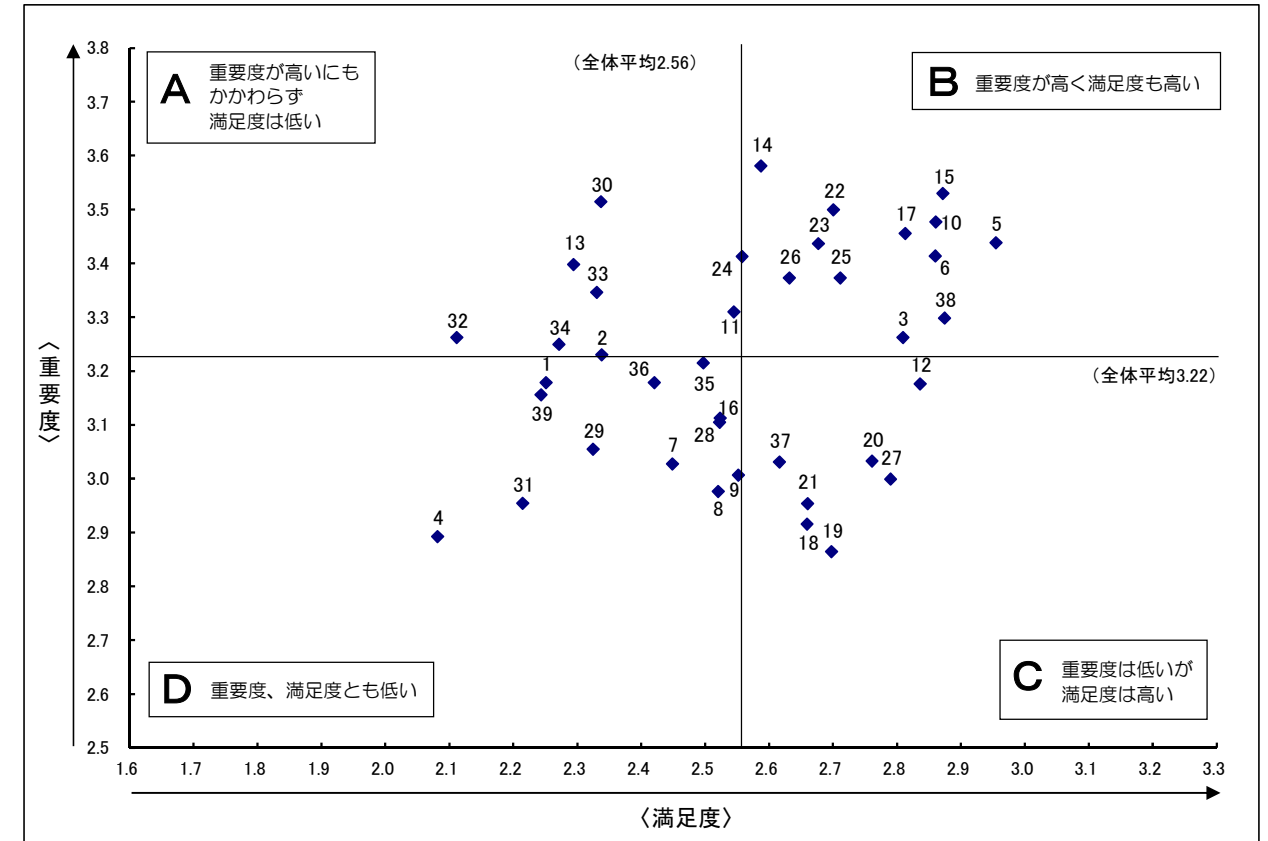
	満足度	重要度
4 保健・医療・福祉	各種健診や相談等の保健事業、医療体制	2.70 ④ 3.50
	子育て支援	2.68 ⑧ 3.44
	高齢者福祉	2.56 ⑨ 3.41
	障がい者福祉	2.71 3.37
	生活保護、国民健康保険等の社会保障	2.63 3.37
	ボランティア等の地域福祉活動	⑨ 2.79 3.00
	5 産業	農業の振興
商工業の振興		2.32 3.05
食料品等の日常品の買い物の便利さ		2.34 ③ 3.51
町の特性をいかした観光の振興		⑤ 2.21 2.95
6 行財政運営	雇用機会の確保	② 2.11 3.26
	自立した行財政運営に向けた改革	2.33 3.35
	先進性・独自性を持ったまちづくり	2.27 3.25
	行政からの情報提供	2.50 3.21
	市民の意見の反映や市民参加機会の確保	2.42 3.18
	人権擁護、男女共同参画の取組み	2.62 3.03
	町職員の接客態度	② 2.87 3.30
	市町村合併や事務組合など行政の広域化	④ 2.24 3.16

○数字は満足度・重要度の高い順位、●数字は満足度の低い順位

〈散布図〉

◇各項目を相対的に評価するため、満足度スコアを横軸、重要度スコアを縦軸にとり、平均値（満足度平均値 2.56、重要度平均値 3.22）で区切り、以下の4つの領域に分類し、散布図を作成した。

◇重要度が高いにもかかわらず満足度は低いA領域の項目は、「食料品等の日常の買い物の便利さ」をはじめ8項目である。



A 重要度が高いにもかかわらず満足度は低い	B 重要度が高く満足度も高い
2 道路の整備(生活道路)	3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ
11 地球温暖化対策	5 上水道
13 道路等の水はけ・冠水対策	6 下水道等の生活排水処理対策
24 高齢者福祉	10 ごみの処理
30 食料品等の日常品の買い物の便利さ	14 防犯や交通安全対策
32 雇用機会の確保	15 消防・防災体制
33 自立した行財政運営に向けた改革	17 小中学校等の教育環境
34 先進性・独自性を持ったまちづくり	22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制
	23 子育て支援
	25 障がい者福祉
	26 生活保護、国民健康保険等の社会保障
	38 町職員の接客態度
D 重要度、満足度とも低い	C 重要度は低いが満足度は高い
1 道路の整備(幹線道路)	12 自然環境の豊かさと保全の取組み
4 町内循環バスの路線網・便数	18 生涯学習の機会・内容
7 公園・遊歩道の整備	19 市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報
8 市街地の街並み・景観の美しさ・快適性	20 地区、自治会等の活動や近所づきあい
9 住宅地の整備	21 地区、自治会活動や市民活動に対する支援
16 消費者対策(相談体制等)	27 ボランティア等の地域福祉活動
28 農業の振興	37 人権擁護、男女共同参画の取組み
29 商工業の振興	
31 町の特性をいかした観光の振興	
35 行政からの情報提供	
36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保	
39 市町村合併や事務組合など行政の広域化	

〈満足度〉

◇「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合の上位は、①上水道、②ごみの処理、③鉄道の駅施設・運行ダイヤ、④下水道等の生活排水処理対策、⑤町職員の接客態度、⑥消防・防災体制、⑦各種健診や相談等の保健事業、医療体制、⑧地区、自治会等の活動や近所づきあい、⑨自然環境の豊かさと保全の取組み、⑩防犯や交通安全対策の順である。

◇これに対し、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた『不満』の割合は、①食料品等の日用品の買い物の便利さ、②道路の整備（幹線道路）、③道路の整備（生活道路）、④道路等の水はけ・冠水対策、⑤公園・遊歩道の整備、⑥市街地の街並み・景観の美しさ・快適性及び町内循環バスの路線網・便数、⑧町の特性をいかした観光の振興、⑨住宅地の整備、⑩防犯や交通安全対策の順である。

◇『満足』と『不満』の割合が拮抗（10ポイント以内の差 ※「わからない」が40%以上のものは除く）しているのは、「公園・遊歩道の整備」、「道路の整備（生活道路）」、「食料品等の日常の買い物の便利さ」、「道路等の水はけ・冠水対策」、「道路の整備（幹線道路）」、「行政からの情報提供」をあげることができる。「行政からの情報提供」を除けば、いずれも生活のインフラである。

◇こうした生活インフラは、居住地区での差異が大きいと考えられ、居住地区ごとの『満足』、『不満』を比較する。

居住地区別『不満』度（生活インフラ）

単位：%

	公園・遊歩道の整備		道路の整備（生活道路）		食料品等の日用品の買い物の便利さ		道路等の水はけ・冠水対策		道路の整備（幹線道路）	
	『満足』	『不満』	『満足』	『不満』	『満足』	『不満』	『満足』	『不満』	『満足』	『不満』
全体	43.6	40.4	45.1	46.5	44.5	48.8	37.5	45.8	39.6	47.4
東～姫宮	46.2	38.5	41.7	49.4	49.4	42.9	38.5	52.0	33.3	53.2
川端	31.2	42.7	49.0	42.7	50.1	43.8	39.6	41.6	45.8	40.6
宮東・中島	27.4	61.9	38.1	53.5	65.5	27.4	31.0	47.6	41.7	45.2
東姫宮	46.3	34.8	46.4	40.6	49.3	42.0	27.5	55.0	28.9	55.0
字道佛	50.7	37.7	66.2	29.9	66.3	23.4	52.0	29.9	55.8	33.8
百間	33.4	54.1	33.3	62.5	52.8	45.9	38.9	38.9	38.9	54.2
宮代～本田	48.2	32.6	50.2	40.7	54.3	41.7	34.7	53.2	45.2	43.2
学園台	64.4	28.8	56.0	40.7	20.3	79.7	39.0	45.7	33.9	59.3
東条原～国納	41.3	40.4	34.6	61.6	31.7	59.6	38.5	47.1	35.6	52.9
大字和戸	44.9	38.2	44.9	43.8	22.5	66.3	38.2	37.1	35.9	48.3
和戸	37.7	48.2	47.0	42.4	44.7	49.4	50.6	32.9	43.5	41.1
宮代台	53.5	32.2	38.1	47.6	16.7	73.8	31.0	51.2	36.9	41.7

○印は、全体より5.0ポイント以上上回る

満足度に関する事項

	満足度スコア	『満足』の割合	『不満』の割合	わからないが40%以上
5 上水道	2.96	① 72.2	15.9	
38 町職員の接客態度	2.87	⑤ 61.6	16.8	
15 消防・防災体制	2.87	⑥ 58.1	14.5	
10 ごみの処理	2.86	② 70.5	⑩ 24.7	
6 下水道等の生活排水処理対策	2.86	④ 63.0	19.6	
12 自然環境の豊かさと保全の取組み	2.84	⑨ 53.4	16.7	
17 小中学校等の教育環境	2.81	⑰ 36.1	11.4	△
3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ	2.81	③ 65.3	⑭ 26.1	
27 ボランティア等の地域福祉活動	2.79	28.2	9.3	△
20 地区、自治会等の活動や近所づきあい	2.76	⑧ 55.6	18.7	
25 障がい者福祉	2.71	26.6	10.8	△
22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制	2.70	⑦ 56.8	⑮ 25.1	
19 市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報	2.70	⑳ 35.4	15.5	△
23 子育て支援	2.68	30.4	15.0	△
21 地区、自治会活動や市民活動に対する支援	2.66	⑰ 39.0	18.4	
18 生涯学習の機会・内容	2.66	29.4	15.1	△
26 生活保護、国民健康保険等の社会保障	2.63	33.2	17.6	△
37 人権擁護、男女共同参画の取組み	2.62	20.8	11.9	△
14 防犯や交通安全対策	2.59	⑩ 49.9	⑩ 30.0	
24 高齢者福祉	2.56	33.5	⑳ 22.2	
9 住宅地の整備	2.55	⑫ 47.2	⑨ 32.9	
11 地球温暖化対策	2.55	28.4	19.7	△
16 消費者対策（相談体制等）	2.52	23.5	17.0	△
28 農業の振興	2.52	18.9	14.0	△
8 市街地の街並み・景観の美しさ・快適性	2.52	⑪ 49.4	⑥ 36.6	
35 行政からの情報提供	2.50	34.4	⑬ 26.5	
7 公園・遊歩道の整備	2.45	⑮ 43.6	⑤ 40.4	
36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保	2.42	26.5	⑰ 23.7	△
2 道路の整備（生活道路）	2.34	⑬ 45.1	③ 46.5	
30 食料品等の日用品の買い物の便利さ	2.34	⑭ 44.5	① 48.8	
33 自立した行財政運営に向けた改革	2.33	19.8	⑰ 23.0	△
29 商工業の振興	2.32	13.6	16.1	△
13 道路等の水はけ・冠水対策	2.29	⑱ 37.5	④ 45.8	
34 先進性・独自性を持ったまちづくり	2.27	23.5	⑪ 29.0	△
1 道路の整備（幹線道路）	2.25	⑯ 39.6	② 47.4	
39 市町村合併や事務組合など行政の広域化	2.24	22.1	⑫ 27.7	△
31 町の特性をいかした観光の振興	2.21	21.4	⑧ 34.0	
32 雇用機会の確保	2.11	11.8	⑱ 23.5	△
4 町内循環バスの路線網・便数	2.08	19.7	⑥ 36.6	△

〈重要度〉

◇「重要」「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合の上位は、①食料品等の日用品の買い物の便利さ、②ごみの処理、③防犯や交通安全対策、④各種健診や相談等の保健事業、医療体制、⑤上水道、⑥消防・防災体制、⑦道路等の水はけ・冠水対策、⑧道路の整備（生活道路）、⑨下水道等の生活排水処理対策、⑩鉄道の駅施設・運行ダイヤの順である。

重要度に関する事項

	重要度スコア	『重要』の割合
14 防犯や交通安全対策	3.58	③ 82.5
15 消防・防災体制	3.53	⑥ 80.3
30 食料品等の日用品の買い物の便利さ	3.51	① 85.0
22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制	3.50	④ 82.0
10 ごみの処理	3.48	② 84.1
17 小中学校等の教育環境	3.45	⑱ 65.3
5 上水道	3.44	⑤ 80.4
23 子育て支援	3.44	63.6
6 下水道等の生活排水処理対策	3.41	⑨ 78.2
24 高齢者福祉	3.41	⑫ 72.8
13 道路等の水はけ・冠水対策	3.40	⑦ 79.2
26 生活保護、国民健康保険等の社会保障	3.37	⑭ 68.4
25 障がい者福祉	3.37	63.5
33 自立した行財政運営に向けた改革	3.35	59.5
11 地球温暖化対策	3.31	63.5
38 町職員の接客態度	3.30	⑫ 72.8
32 雇用機会の確保	3.26	54.3
3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ	3.26	⑩ 75.8
34 先進性・独自性を持ったまちづくり	3.25	61.3
2 道路の整備(生活道路)	3.23	⑧ 78.6
35 行政からの情報提供	3.21	64.2
36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保	3.18	59.7
1 道路の整備(幹線道路)	3.18	⑪ 74.3
12 自然環境の豊かさや保全の取組み	3.18	⑭ 68.4
39 市町村合併や事務組合など行政の広域化	3.16	54.4
16 消費者対策(相談体制等)	3.11	53.1
28 農業の振興	3.10	49.0
29 商工業の振興	3.05	45.3
20 地区、自治会等の活動や近所づきあい	3.03	⑲ 64.9
37 人権擁護、男女共同参画の取組み	3.03	47.2
7 公園・遊歩道の整備	3.03	⑯ 68.2
9 住宅地の整備	3.01	⑳ 64.4
27 ボランティア等の地域福祉活動	3.00	51.4
8 市街地の街並み・景観の美しさ・快適性	2.98	⑰ 66.5
31 町の特性をいかした観光の振興	2.95	53.4
21 地区、自治会活動や市民活動に対する支援	2.95	56.4
18 生涯学習の機会・内容	2.92	49.3
4 町内循環バスの路線網・便数	2.89	48.4
19 市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報	2.86	47.5

〈散布図にみる年代別比較〉

◇散布図のA領域（重要度が高いにもかかわらず満足度は低い）を年代別にみると、すべての年代で共通してあがっている項目は、「道路等の水はけ・冠水対策」である。「食料品等の日常の買い物の便利さ」や「自立した行財政運営に向けた改革」「雇用機会の確保」は、すべての年代ではないが、多くの年代があげている項目である。

年代別のA領域（重要度が高いにもかかわらず満足度は低い）

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
2 道路の整備（生活道路）	○			○		○		
11 地球温暖化対策	○						○	○
13 道路等の水はけ・冠水対策	○	○	○	○	○	○	○	○
24 高齢者福祉	○						○	○
30 食料品等の日用品の買い物の便利さ	○	○	○		○	○	○	○
32 雇用機会の確保	○	○		○	○	○		○
33 自立した行財政運営に向けた改革	○	○		○	○	○	○	○
34 先進性・独自性を持ったまちづくり	○	○					○	○
3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ		○	○					
16 消費者対策（相談体制等）		○						
17 小中学校等の教育環境		○						
18 生涯学習の機会・内容		○						
28 農業の振興		○						
29 商工業の振興		○						
31 町の特性をいかした観光の振興		○						
35 行政からの情報提供		○				○		○
39 市町村合併や事務組合など行政の広域化		○						○
10 ごみの処理			○					
14 防犯や交通安全対策			○		○	○		
1 道路の整備（幹線道路）				○				
7 公園・遊歩道の整備				○				
22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制				○				
26 生活保護、国民健康保険等の社会保障						○	○	
36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保						○		

〈前回（平成 26 年度）調査との比較〉

- ◇前回調査では、重要度の質問形式が異なり、重点的に取り組む必要がある項目について5つまで選択してもらう形式としていたが、今回調査では全ての項目について重要度を評価してもらう形式とした。そのため単純比較はむずかしいが、A領域にあげられている項目について比較する。
- ◇前回調査、今回調査でいずれもA領域にあげられている項目は、「道路等の水はけ、冠水対策」「高齢者福祉」「自立した行財政運営に向けた歳入確保・歳出削減」「先進性・独自性を持ったまちづくり」である。
- ◇前回調査ではA領域にあげられていた「道路の整備（幹線道路）」及び「農業の振興」「町の特性をいかした観光の振興」は、今回調査ではD領域に、また、「子育て支援」はB領域となっている。
- ◇これに対し、今回調査で新たにA領域にあげられた項目は、「道路の整備（生活道路）」「地球温暖化対策」「食料品等の日用品の買い物の便利さ」「雇用機会の確保」であり、日常生活に不便を感じている町民が増えているとともに、経済環境の厳しさ、環境問題への関心の高さが反映されている。

前回（平成 26 年度）調査との比較

平成 26 年度調査	今回調査
A 重要度が高いにもかかわらず満足度は低い	
1 道路の整備(幹線道路) 13 道路等の水はけ、冠水対策 23 子育て支援 24 高齢者福祉 28 農業の振興 31 町の特性をいかした観光の振興 33 自立した行財政運営に向けた歳入確保・歳出削減 34 先進性・独自性を持ったまちづくり	2 道路の整備(生活道路) 11 地球温暖化対策 13 道路等の水はけ・冠水対策 24 高齢者福祉 30 食料品等の日用品の買い物の便利さ 32 雇用機会の確保 33 自立した行財政運営に向けた改革 34 先進性・独自性を持ったまちづくり
B 重要度が高く満足度も高い	
2 道路の整備(生活道路) 3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ 8 市街地の街並み・景観の美しさ・快適性 12 自然環境の豊かさと保全の取組み 14 防犯や交通安全対策 17 小中学校等の教育環境 22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制 30 食料品等の日用品の買い物の便利さ	3 鉄道の駅施設・運行ダイヤ 5 上水道 6 下水道等の生活排水処理対策 10 ごみの処理 14 防犯や交通安全対策 15 消防・防災体制 17 小中学校等の教育環境 22 各種健診や相談等の保健事業、医療体制 23 子育て支援 25 障がい者福祉 26 生活保護、国民健康保険等の社会保障 38 町職員の接客態度

平成 26 年度調査	今回調査
C 重要度は低いが満足度は高い	
5 上水道 6 下水道等の生活排水処理対策 7 公園・遊歩道の整備 9 住宅地の整備 10 ごみの処理 15 消防・防災体制 19 市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報 20 地区、自治会等の活動や近所づきあい 38 町職員の接客態度	12 自然環境の豊かさと保全の取組み 18 生涯学習の機会・内容 19 市民の生涯学習活動や市民活動に関する情報 20 地区、自治会等の活動や近所づきあい 21 地区、自治会活動や市民活動に対する支援 27 ボランティア等の地域福祉活動 37 人権擁護、男女共同参画の取組み
D 重要度、満足度とも低い	
4 町内循環バスの路線網・便数 11 地球温暖化対策 16 消費者対策(相談体制等) 18 生涯学習の機会・内容 21 地区、自治会活動や市民活動に対する支援 25 障がい者福祉 26 生活保護、国民健康保険等の社会保障 27 ボランティア等の地域福祉活動 29 商工業の振興 32 雇用機会の確保 35 行政からの情報提供 36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保 37 人権擁護、男女共同参画の取組み	1 道路の整備(幹線道路) 4 町内循環バスの路線網・便数 7 公園・遊歩道の整備 8 市街地の街並み・景観の美しさ・快適性 9 住宅地の整備 16 消費者対策(相談体制等) 28 農業の振興 29 商工業の振興 31 町の特性をいかした観光の振興 35 行政からの情報提供 36 市民の意見の反映や市民参加機会の確保 39 市町村合併や事務組合など行政の広域化

※前回調査とは重要度の質問形式が異なるため、単純な比較はできない。

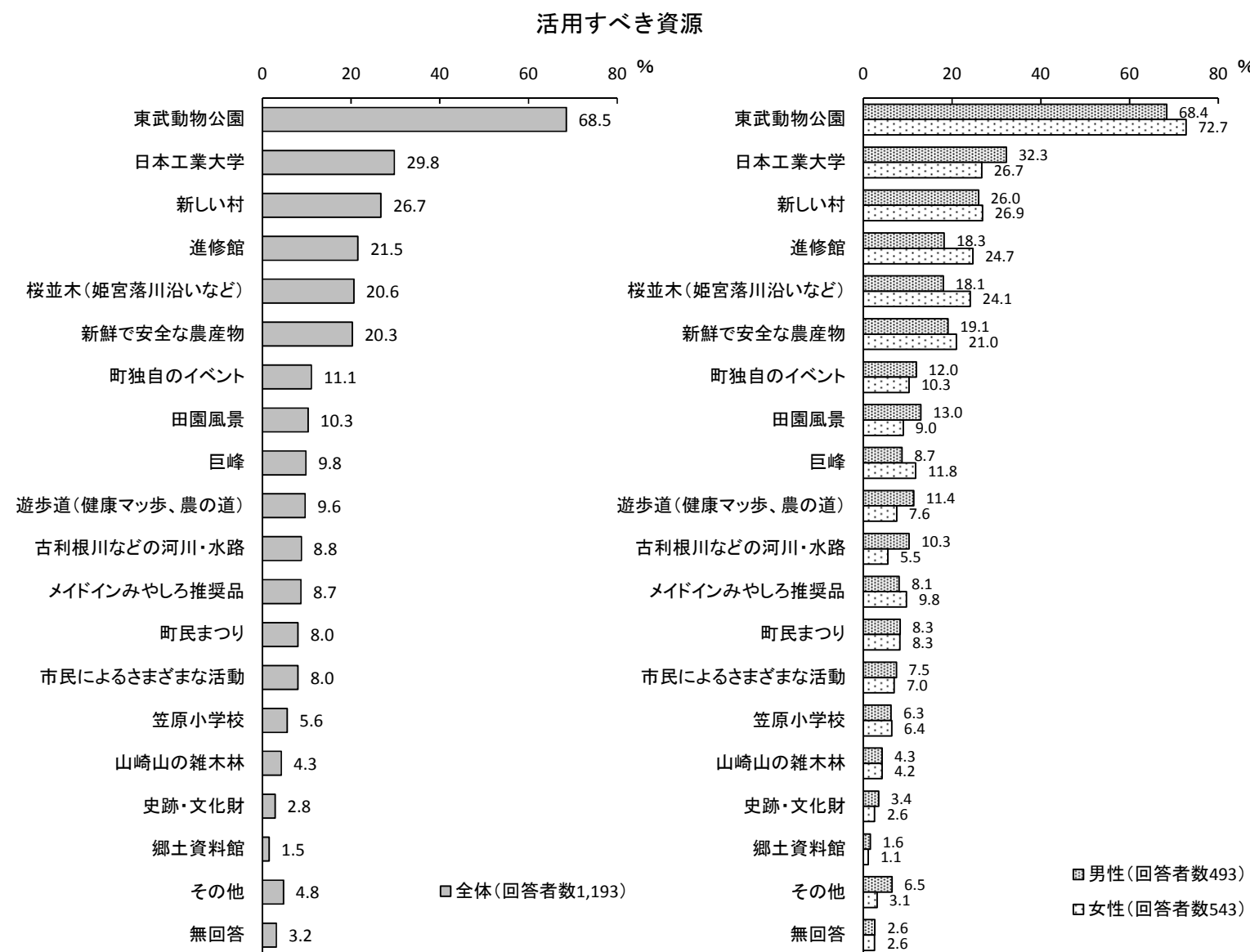
7. 町の強み

〈全体〉

◇活用すべき資源は、「東武動物公園」が68.5%と断トツである。2位以下は、「日本工業大学」29.8%、「新しい村」26.7%、「進修館」21.5%、「桜並木（姫宮落川沿いなど）」20.6%、「新鮮で安全な農産物」20.3%などである。

〈性別〉

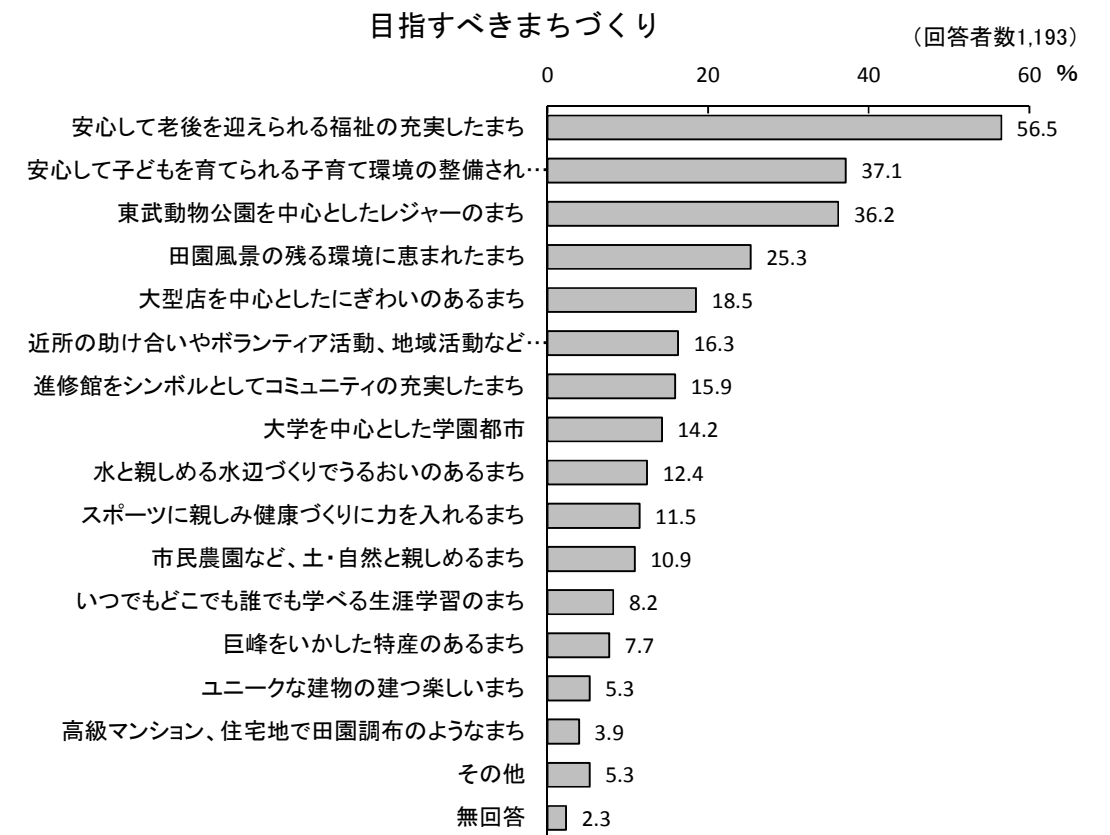
◇男性が女性をやや上回るのは「日本工業大学」や「遊歩道（健康マッ歩、農の道）」、「田園風景」、「古利根川などの河川・水路」などに対し、女性が男性をやや上回るのは、「東武動物公園」、「進修館」、「桜並木（姫宮落川沿いなど）」、「新鮮で安全な農産物」、「巨峰」などである。



8. どのようなまちづくりを目指すべきか

〈全体〉

◇最も多いのが「安心して老後を迎えられる福祉の充実したまち」56.5%、「安心して子どもを育てられる子育て環境の整備されたまち」37.1%、「東武動物公園を中心としたレジャーのまち」36.2%、「田園風景の残る環境に恵まれたまち」25.3%、「大型店を中心としたにぎわいのあるまち」18.5%、「近所の助け合いやボランティア活動、地域活動などが活発な市民自治の進んだまち」16.3%などである。



〈性別〉

◇女性は「安心して老後を迎えられる福祉の充実したまち」「安心して子どもを育てられる子育て環境の整備されたまち」といった安心、及び「大型店を中心としたにぎわいのあるまち」が男性をやや上回る。

◇「大学を中心とした学園都市」は男性が女性の倍近い。

〈年齢別〉

◇「安心して老後を迎えられる福祉の充実したまち」は、20歳代及び30歳代を除き1位である。

◇「安心して子どもを育てられる子育て環境の整備されたまち」は、子育ての年代を中心に、10歳代、20歳代、30歳代で1位である。

◇「大型店を中心としたにぎわいのあるまち」は、20歳代で3位にあげられている。

◇20歳代及び30歳代は、「市民農園など、土・自然と親しめるまち」が5位にあがり、40歳代、50歳代及び20歳代では「進修館をシンボルとしてコミュニティの充実したまち」が5位、6位となっている。

性別・年代別の目指すべきまちづくり

	全体	性別		年齢別						
		男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
安心して老後を迎えられる福祉の充実したまち	① 56.5%	① 53.3	① 59.1	① 46.7	④ 28.1	③ 36.8	① 46.5	① 54.8	① 68.8	① 63.3
安心して子どもを育てられる子育て環境の整備されたまち	② 37.1%	③ 35.5	② 42.2	① 46.7	① 50.0	① 59.0	③ 36.8	③ 37.7	② 35.6	③ 29.3
東武動物公園を中心としたレジャーのまち	③ 36.2%	② 40.0	③ 34.1	③ 33.3	② 45.3	② 46.2	② 39.6	② 42.5	③ 31.6	② 32.0
田園風景の残る環境に恵まれたまち	④ 25.3%	④ 27.0	④ 25.4	13.3	⑥ 17.2	④ 27.4	④ 28.5	④ 25.3	④ 29.6	④ 22.4
大型店を中心としたにぎわいのあるまち	⑤ 18.5%	⑥ 15.8	⑤ 20.8	13.3	③ 29.7	⑤ 17.9	⑥ 17.4	⑤ 19.2	⑥ 18.0	17.4
近所の助け合いやボランティア活動、地域活動などが活発な市民自治の進んだまち	⑥ 16.3%	15.4	⑥ 16.6	6.7	7.8	12.0	15.3	10.3	⑤18.8	⑥ 19.9
大学を中心とした学園都市	⑧ 14.2%	⑤ 17.0	9.2	6.7	9.4	6.8	11.1	11.0	12.0	⑤ 20.4
ユニークな建物の建つ楽しいまち	⑫ 5.3%	5.3	6.4	④ 26.7	10.9	13.7	9.7	3.4	2.8	2.2
水と親しめる水辺づくりでうおいのあるまち	⑨ 12.4%	15.6	8.5	⑤ 20.0	14.1	8.5	9.0	15.1	11.2	14.1
スポーツに親しみ健康づくりに力を入れるまち	⑩ 11.5%	12.4	10.9	⑤ 20.0	9.4	10.3	9.7	11.0	10.8	12.8
市民農園など、土・自然と親しめるまち	⑪ 10.9%	11.6	11.8	0.0	⑤ 20.3	⑤ 17.9	12.5	10.3	12.0	7.4
進修館をシンボルとしてコミュニティの充実したまち	⑦ 15.9%	15.2	16.0	6.7	⑥ 17.2	13.7	⑤ 18.1	⑥ 16.4	14.0	17.0

○数字は順位

9. 重要だと思う・参加できる地域活動

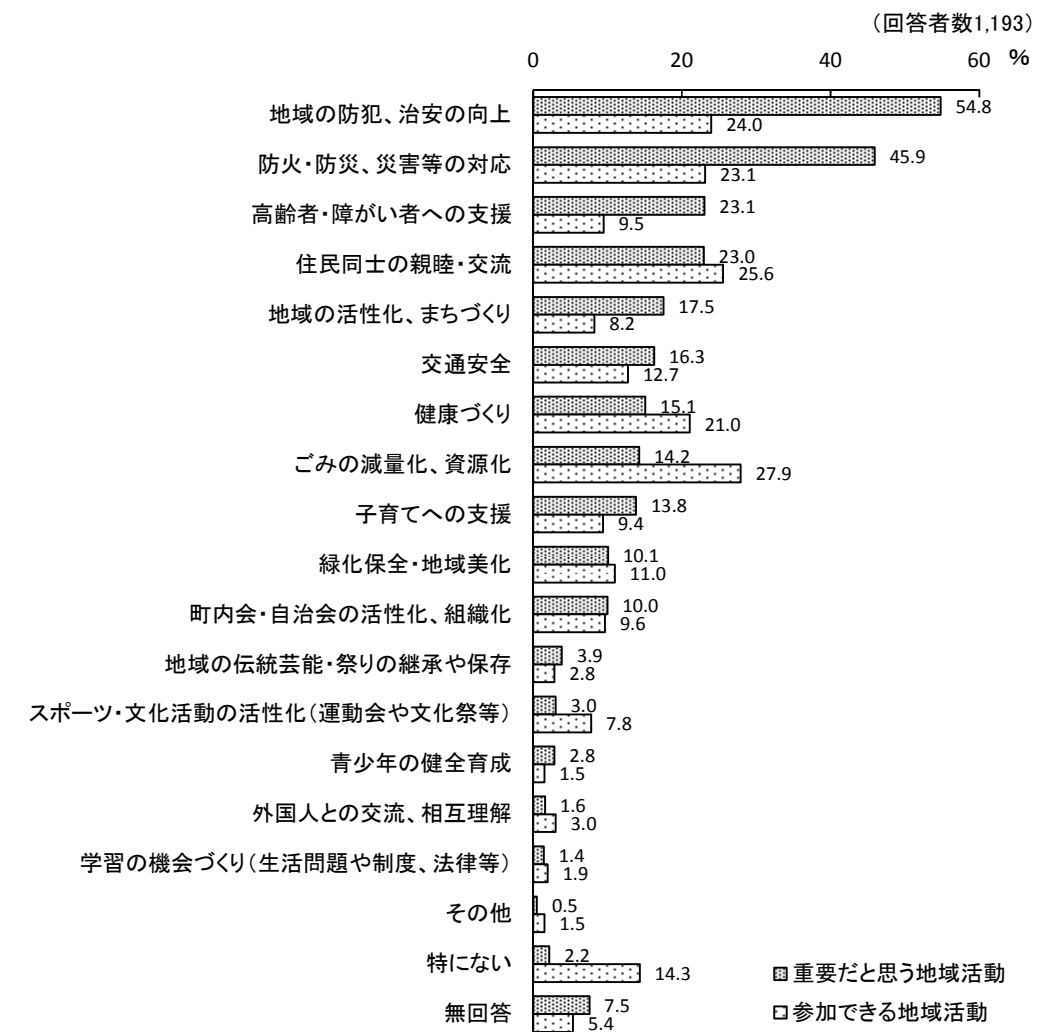
〈全体〉

◇重要だと思う地域活動は、「地域の防犯、治安の向上」54.8%、「防火・防災、災害等の対応」45.9%、いずれも2人に1人があげている。次いで「高齢者・障がい者への支援」23.1%、「住民同士の親睦・交流」23.0%、「地域の活性化、まちづくり」17.5%などである。

◇参加できる地域活動は、「ごみの減量化、資源化」27.9%、「住民同士の親睦・交流」25.6%、「地域の防犯、治安の向上」24.0%、「防火・防災、災害等の対応」23.1%、「健康づくり」21.0%などである。

◇これらの中で、「ごみの減量化、資源化」と「健康づくり」は重要な地域活動の上位ではない。逆に、重要な地域活動の上位にある「高齢者・障がい者への支援」や「地域の活性化、まちづくり」は、参加できる地域活動の上位にはない。

重要だと思う地域活動・参加できる地域活動



〈性別〉

◇参加できる地域活動では、「ごみの減量化、資源化」や「健康づくり」は女性がやや多く、「地域の防犯、治安の向上」や「防火・防災、災害等の対応」は男性がやや多い。

〈年齢別〉

◇「ごみの減量化、資源化」は70歳以上を除いたすべての年代で1位、2位にあげられている。「住民同士の親睦・交流」は40歳代から、「健康づくり」は50歳代から上位である。「交通安全」は、40歳代以下は上位である。

〈居住地区〉

◇「ごみの減量化、資源化」は和戸のみ、やや少ない。「住民同士の親睦・交流」は東～姫宮や宮東・中島、東姫宮で30%を超える。
 ◇「地域の防犯、治安の向上」「防火・防災、災害等の対応」は、学園台のみ30%を超える。これに対し、「地域の防犯、治安の向上」は百間で18.1%、「防火・防災、災害等の対応」は大字和戸で14.6%と少ない。
 ◇「子育てへの支援」は、字道佛22.1%、和戸11.8%、宮代～本田11.6%、東条原～国納11.5%のみ2ケタである。

性別・年齢別 参加できる地域活動

	重要な地域活動全体	参加できる地域活動										
		全体	性別		年齢別							
			男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
ごみの減量化、資源化	⑧ 14.2	① 27.9	④ 24.7	① 31.9	② 26.7	① 21.9	② 28.2	① 29.2	① 32.9	② 30.8	⑤ 24.6	
住民同士の親睦・交流	④ 23.0	② 25.6	③ 25.6	② 24.1	0.0	10.9	16.2	19.4	④ 17.1	① 31.6	① 32.4	
地域の防犯、治安の向上	① 54.8	③ 24.0	① 30.0	④ 19.0	④ 20.0	⑤ 12.5	③ 24.8	③ 20.1	③ 21.2	③ 25.6	④ 26.4	
防火・防災、災害等の対応	② 45.9	④ 23.1	② 28.4	⑤ 18.6	⑤ 13.3	7.8	④ 22.2	④ 19.4	② 26.7	⑤ 20.8	③ 26.6	
健康づくり	⑦ 15.1	⑤ 21.0	⑤ 17.2	③ 22.3	② 26.7	④ 14.1	9.4	11.1	⑤ 15.1	④ 24.8	② 27.7	
子育てへの支援	⑨ 13.8	9.4	7.1	13.1	⑤ 13.3	② 17.2	① 29.1	17.4	10.3	5.6	2.2	
交通安全	⑥ 16.3	12.7	16.2	10.7	① 33.3	② 17.2	⑤ 19.7	② 20.8	12.3	10.0	8.7	
高齢者・障がい者への支援	③ 23.1	9.5	8.1	9.8	0.0	3.1	8.5	8.3	6.2	10.4	12.1	
地域の活性化、まちづくり	⑤ 17.5	8.2	10.1	6.6	6.7	9.4	7.7	7.6	8.2	9.2	8.1	
緑化保全、地域美化	⑩ 10.1	11.0	13.0	9.8	20.0	12.5	7.7	13.9	14.4	11.2	8.9	

居住地区別 参加できる地域活動

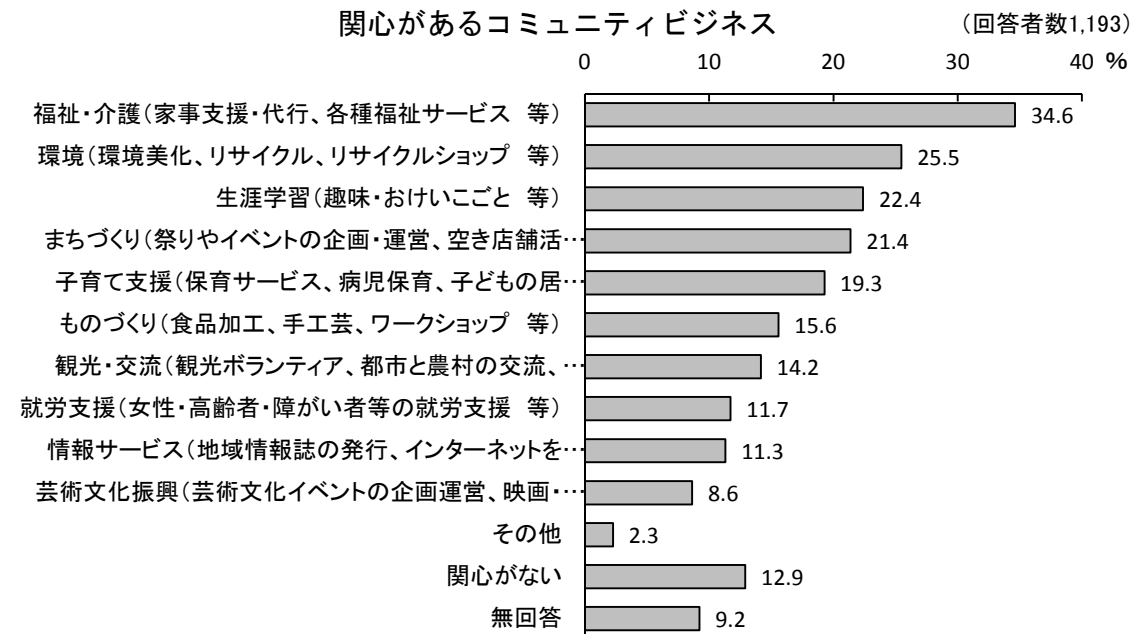
	重要な地域活動全体	参加できる地域活動												
		全体	居住地区											
			東～姫宮	川端	宮東・中島	東姫宮	字道佛	百間	宮代～本田	学園台	東条原～国納	大字和戸	和戸	宮代台
ごみの減量化、資源化	⑧ 14.2	① 27.9	② 32.1	① 26.0	② 28.6	② 30.4	① 26.0	① 27.8	① 29.1	① 35.6	② 26.9	③ 24.7	③ 18.8	① 27.4
住民同士の親睦・交流	④ 23.0	② 25.6	① 32.7	④ 20.8	① 38.1	① 37.7	③ 23.4	② 26.4	③ 23.1	⑤ 16.9	① 27.9	④ 19.1	③ 18.8	⑤ 20.2
地域の防犯、治安の向上	① 54.8	③ 24.0	⑤ 20.5	③ 22.9	③ 27.4	③ 26.1	② 24.7	⑤ 18.1	② 24.1	① 35.6	④ 25.0	② 25.8	① 22.4	② 22.6
防火・防災、災害等の対応	② 45.9	④ 23.1	③ 29.5	① 26.0	⑤ 23.8	⑤ 23.2	③ 23.4	③ 20.8	④ 20.1	③ 33.9	⑤ 21.2	⑤ 14.6	① 22.4	② 22.6
健康づくり	⑦ 15.1	⑤ 21.0	④ 25.0	15.6	④ 26.2	④ 24.6	15.6	④ 19.4	⑤ 14.6	④ 27.1	② 26.9	① 28.1	⑤ 15.3	④ 21.4
子育てへの支援	⑨ 13.8	9.4	6.4	8.3	4.8	4.3	⑤ 22.1	9.7	11.6	8.5	11.5	9.0	11.8	3.6
交通安全	⑥ 16.3	12.7	11.5	14.6	11.9	7.2	14.3	13.9	10.6	10.2	11.5	⑤ 14.6	14.1	22.6
高齢者・障がい者への支援	③ 23.1	9.5	11.5	9.4	10.7	7.2	11.7	8.3	9.0	8.5	6.7	9.0	8.2	14.3
地域の活性化、まちづくり	⑤ 17.5	8.2	9.6	7.3	6.0	7.2	5.2	9.7	9.0	6.8	1.5	3.4	14.1	7.1
緑化保全、地域美化	⑩ 10.1	11.0	10.9	⑤ 16.7	9.5	13.0	15.6	8.3	9.0	15.3	9.6	3.4	9.4	13.1

○数字は順位

10. コミュニティビジネス

〈全体〉

◇関心があるコミュニティビジネスは、「福祉・介護」34.6%、「環境」25.5%、「生涯学習」22.4%、「まちづくり」21.4%、「子育て支援」19.3%などである。



〈性別〉

◇「福祉・介護」は男女とも1位である。「子育て支援」や「生涯学習」は女性の関心が、「環境」や「まちづくり」は男性の関心が比較的高い。

〈年齢別〉

「福祉・介護」や「環境」は50歳代以上、「まちづくり」や「子育て支援」は40歳代以下の関心が比較的高い。

性別・年齢別 関心があるコミュニティビジネス

	全体	性別		年齢別						
		男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
福祉・介護	① 34.6	① 34.3	① 34.4	⑤ 6.7	③ 25.0	④ 19.7	③ 25.0	① 42.1	① 44.8	① 34.9
環境	② 25.5	② 30.0	④ 21.5	③ 20.0	⑤ 9.4	⑤ 14.5	⑤ 18.8	② 22.6	② 35.6	② 28.0
生涯学習	③ 22.4	④ 19.3	② 26.5	② 26.7	④ 10.9	③ 22.2	④ 22.9	⑤ 16.4	③ 27.2	③ 22.6
まちづくり	④ 21.4	③ 26.8	⑤ 17.5	① 46.7	② 26.6	② 30.8	① 27.8	③ 21.9	④ 19.6	④ 15.9
子育て支援	⑤ 19.3	⑤ 17.2	③ 23.9	③ 20.0	① 32.8	① 49.6	② 26.4	④ 20.5	⑤ 15.2	⑤ 8.9

○数字は順位

宮代町転入者意識調査結果の概要 (18歳以上の転入者1,000人を対象)

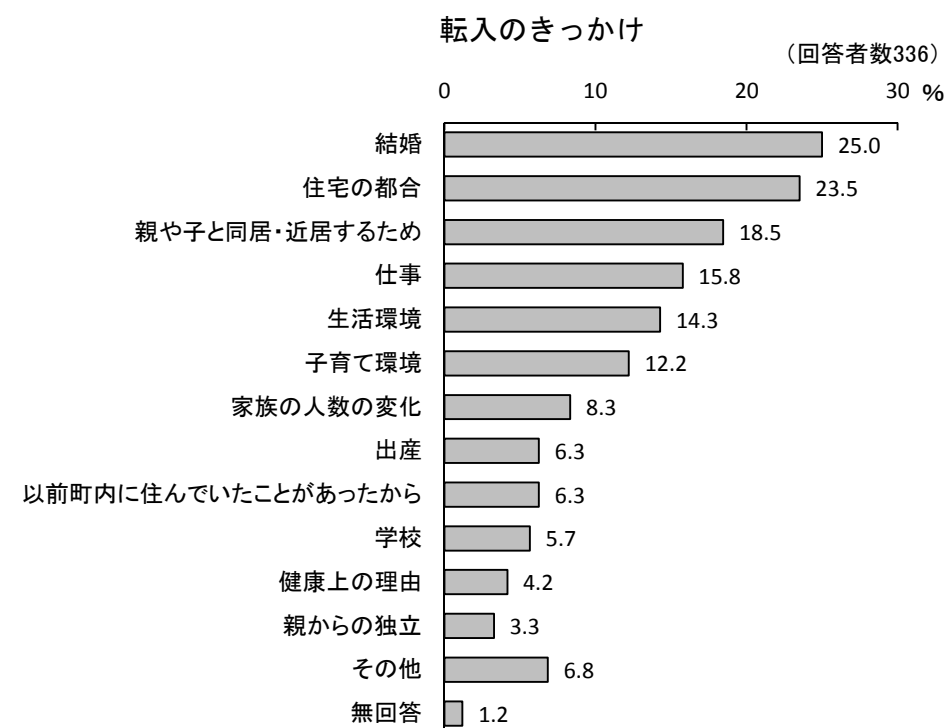
◎アンケート調査の実施概要

調査対象	過去5年間に宮代町へ転入した18歳以上の男女
対象数	1,000人
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和元年6月10日～7月1日
回収数(率)	336人(33.6%)

1. 転入のきっかけ

〈全体〉

◇転入のきっかけは、「結婚」25.0%、「住宅の都合」23.5%、「親や子と同居・近居するため」18.5%、「仕事」15.8%、「生活環境」14.3%、「子育て環境」12.2%などである。



〈年齢別〉

◇「結婚」は20歳代及び30歳代に多い。「住宅の都合」は、50歳代30.4%、30歳代27.9%、20歳代24.7%と、年齢は幅広い。「親や子と同居・近居するため」は70歳代以上35.0%、50歳代34.8%がほぼ同程度であり、次いで40歳代の29.2%である。

〈転入時の就学状況〉

◇転入時に就学前または就学中の家族が「いる」とした人は、「住宅の都合」37.9%に次いで、「子育て環境」32.0%をあげている。

年齢別・就学状況別転入のきっかけ

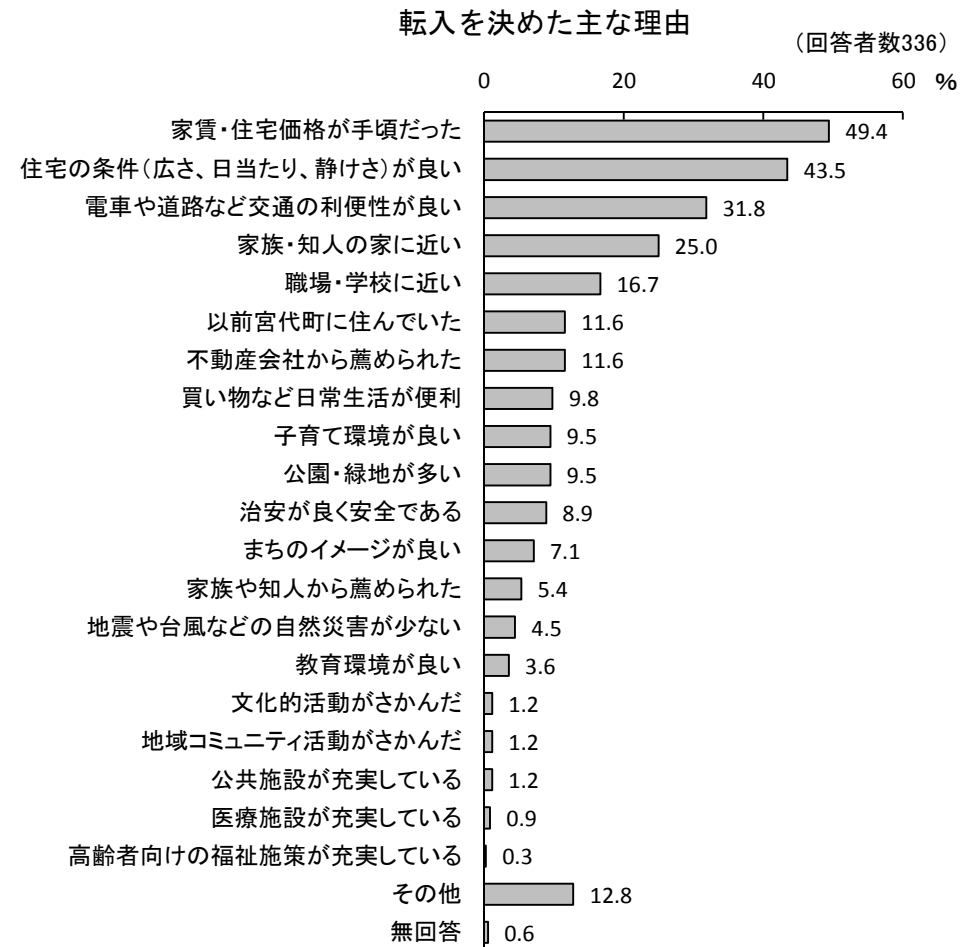
	全体	年齢別							就学状況	
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	いる	いない
結婚	① 25.0	0.0	① 35.6	① 35.3	② 18.8	0.0	0.0	0.0	6.8	① 33.9
住宅の都合	② 23.5	② 14.3	② 24.7	② 27.9	⑤ 14.6	② 30.4	③ 17.4	③ 15.0	① 37.9	③ 17.0
親や子と同居・近居するため	③ 18.5	0.0	⑤ 9.6	⑤ 14.7	① 29.2	① 34.8	② 21.7	① 35.0	③ 25.2	④ 15.2
仕事	④ 15.8	0.0	② 24.7	④ 16.2	② 18.8	4.3	4.3	0.0	10.7	② 17.4
生活環境	⑤ 14.3	② 14.3	⑤ 9.6	④ 14.0	④ 16.7	③ 26.1	⑤ 13.0	③ 15.0	④ 21.4	⑤ 11.2
子育て環境	⑥ 12.2	0.0	④ 11.0	③ 19.9	10.4	0.0	0.0	0.0	② 32.0	3.1
家族の人数の変化	⑦ 8.3	0.0	4.1	8.1	8.3	4.3	① 26.1	③ 15.0	14.6	5.4
その他	⑧ 6.8	0.0	4.1	2.9	8.3	④ 17.4	③ 17.4	③ 15.0	4.9	7.6
出産	⑨ 6.3	② 14.3	⑤ 9.6	6.6	6.3	0.0	0.0	0.0	6.8	5.8
以前町内に住んでいたことがあったから	⑨ 6.3	0.0	5.5	6.6	8.3	⑤ 8.7	4.3	5.0	7.8	5.8
学校	5.7	① 71.4	5.5	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	⑤ 15.5	1.3
健康上の理由	4.2	0.0	0.0	2.9	4.2	4.3	13.0	② 20.0	3.9	4.0
親からの独立	3.3	② 14.3	5.5	2.2	4.2	0.0	4.3	0.0	1.0	4.5

○数字は順位

2. 転入の決め手

〈全体〉

◇本町に転入を決めた主な理由は、「家賃・住宅価格が手頃だった」49.4%、「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）が良い」43.5%、次いでやや差があり「電車や道路など交通の利便性が良い」31.8%である。



〈年齢別〉

◇「家賃・住宅価格が手頃だった」は、10歳代から30歳代いずれも50%台と他の年代を上回る。「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）が良い」は、60歳代のみ50%を上回るが、50歳代及び70歳代以上を除いては、いずれも40%台である。

年齢別 転入を決めた主な理由

	全体	年齢別						
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
家賃・住宅価格が手頃だった	① 49.4	① 57.1	① 54.8	① 53.7	② 41.7	① 39.1	② 43.5	① 30.0
住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)が良い	② 43.5	③ 42.9	② 47.9	② 44.1	① 45.8	② 34.8	① 52.2	③ 15.0
電車や道路など交通の利便性 が良い	③ 31.8	① 57.1	③ 37.0	③ 33.8	④ 22.9	③ 17.4	③ 34.8	② 20.0
家族・知人の家に近い	④ 25.0		④ 28.8	④ 28.7	③ 27.1	③ 17.4	④ 17.4	⑤ 10.0
職場・学校に近い	⑤ 16.7	③ 42.9	⑤ 26.0			③ 17.4		4.3
以前宮代町に住んでいた	⑥ 11.6				⑤ 20.8	③ 17.4		4.3
不動産会社から薦められた	⑥ 11.6			⑤ 15.4	8.3	8.7	8.7	5.0
買い物など日常生活が便利	⑧ 9.8			⑤ 15.4	4.2	4.3	4.3	5.0
子育て環境が良い	⑨ 9.5				14.3	11.0	14.0	6.3
公園・緑地が多い	⑨ 9.5					0.0	0.0	0.0
治安が良く安全である	8.9					14.3	9.6	10.3
まちのイメージが良い	7.1						8.3	8.7
家族や知人から薦められた	5.4							④ 17.4
地震や台風などの自然災害が 少ない	4.5							④ 15.0
								④ 17.4
								④ 10.0

○数字は順位

3. 住んでみた感想

〈全体〉

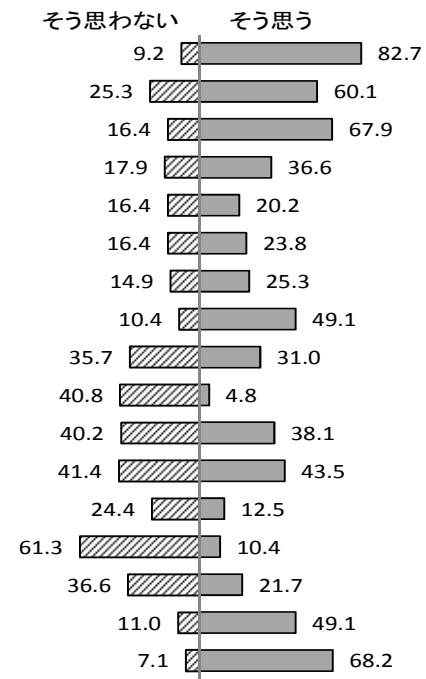
◇「そう思う」とした割合が高いのは①自然が豊か 82.7%、②安心して住める・暮らせる 68.2%、③住環境が良い 67.9、④公園・緑地が多い 60.1%、⑤農業がさかん及び自然災害が少ない 49.1%の順である。

◇これに対し、「そう思わない」とした割合が高いのは、①医療施設が充実 61.3%、②交通の利便性が良い 41.4%、③商工業がさかん 40.8%、④日常生活が快適で便利 40.2%、⑤公共施設が充実 36.6%である。

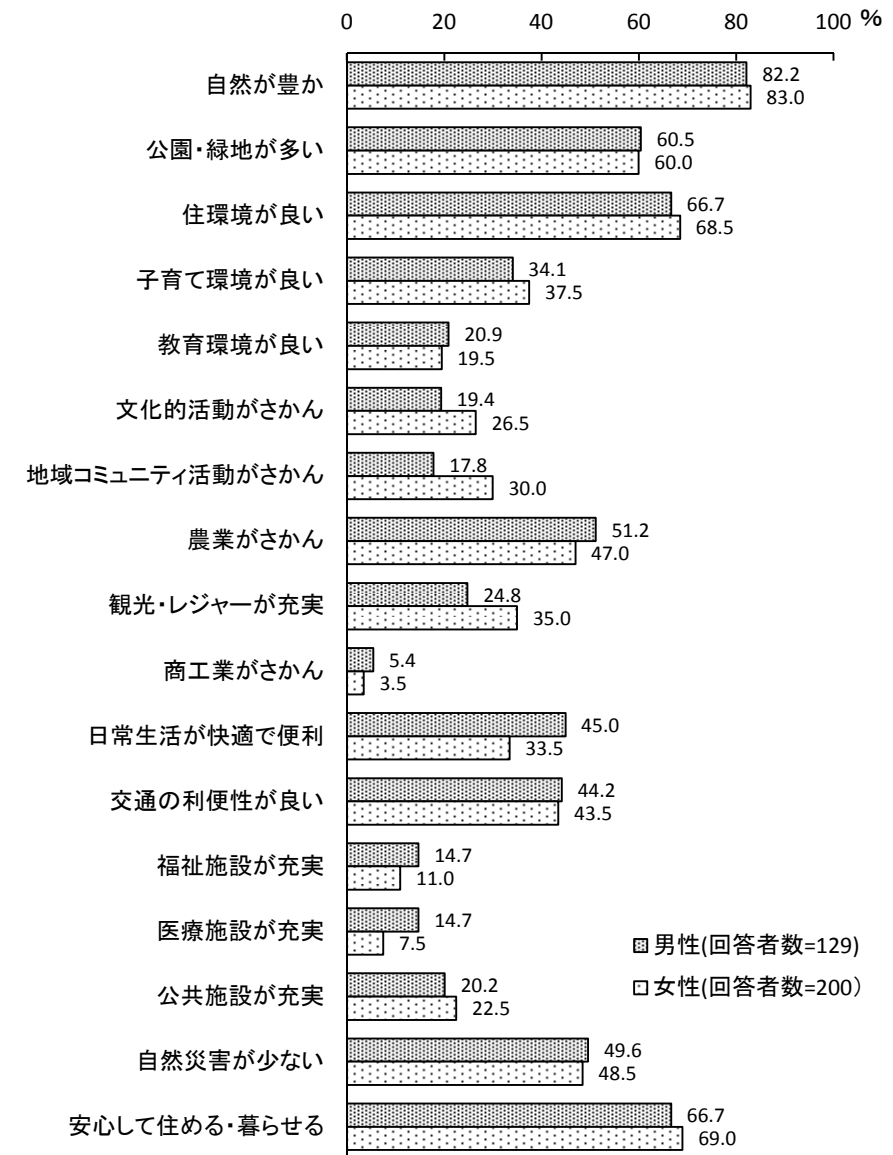
住んでみた感想

	そう思う	そう思わない	わからない
自然が豊か	82.7	9.2	
公園・緑地が多い	60.1	25.3	
住環境が良い	67.9	16.4	
子育て環境が良い	36.6	17.9	△
教育環境が良い	20.2	16.4	△
文化的活動がさかん	23.8	16.4	△
地域コミュニティ活動がさかん	25.3	14.9	△
農業がさかん	49.1	10.4	
観光・レジャーが充実	31.0	35.7	
商工業がさかん	4.8	40.8	△
日常生活が快適で便利	38.1	40.2	
交通の利便性が良い	43.5	41.4	
福祉施設が充実	12.5	24.4	△
医療施設が充実	10.4	61.3	
公共施設が充実	21.7	36.6	△
自然災害が少ない	49.1	11.0	
安心して住める・暮らせる	68.2	7.1	

△は「わからない」が40%以上



性別 住んでみた感想「そう思う」



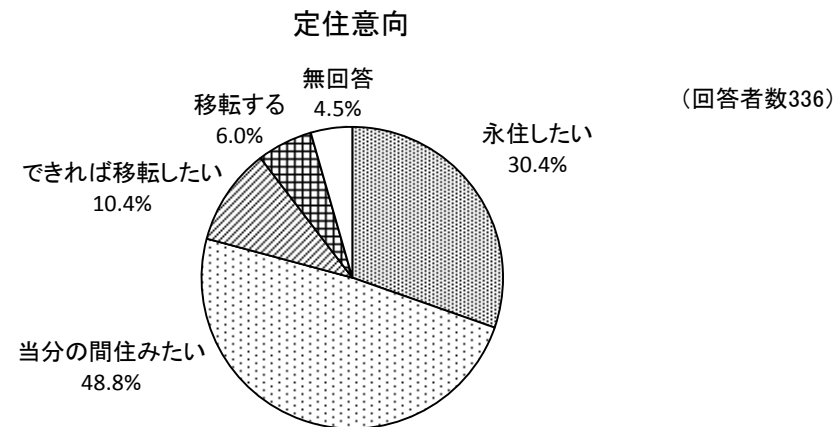
〈性別〉

◇「そう思う」について、男性が女性を上回る（5.0ポイント以上）項目は、「日常生活が快適で便利」「医療施設が充実」であるのに対し、女性が男性を上回る（5.0ポイント以上）項目は、「文化的活動がさかん」「地域コミュニティ活動がさかん」「観光・レジャーが充実」である。

4. 定住意向

〈全体〉

- ◇「永住したい」30.4%、「当分の間住みたい」48.8%、合わせた『定住したい』は79.2%である。
- ◇これに対し、「できれば移転したい」10.4%、「移転する」6.0%を合わせた『移転したい』は16.4%である。



〈性別〉

- ◇『定住したい』男性は79.8%、女性は78.5%と、ほとんど差がない。

〈年齢別〉

- ◇『定住したい』は、30歳代83.8%、20歳代83.5%と、次の70歳以上75.0%、50歳代73.9%などとはやや差がある。やや少ないのは、60歳代の69.5%、40歳代の70.9%、10歳代の71.4%である。『移転したい』は、10歳代28.6%、40歳代27.1%の順である。

